

第49回（令和6年度第2回）

市民動物園会議

会 議 録

日 時：2025年1月30日（木）午後1時30分開会

場 所：円山動物園内 動物園プラザ

【寺島保全・教育推進課長】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第 49 回市民動物園会議を開催いたします。本日は、大変お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。私は進行を務めます保全・教育推進課長の寺島でございます。どうぞよろしくお願い致します。

本日は、河合委員が所用のため欠席とご連絡をいただいておりますが、定足数を満たしておりますので、会議はこのまま開催させていただきます。

はじめに、当園園長の柴田よりご挨拶を申し上げます。

【柴田園長】

園長の柴田でございます。

皆さま、本日はご多忙の中、市民動物園会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当園の取組にお力添えいただいておりますこと、お礼申し上げます。

今年度は 6 月に円山動物園ビジョン 2050 第 2 次実施計画を策定させていただき、その計画に基づいて動物福祉評価や野生動物の保全活動を初めとする課題に取り組んでまいりました。

動物園応援基金を活用させていただくことができたので、動物病院の機能強化として、ICU を更新させていただきましたのと、動物福祉向上のために子ども動物園のエゾユキウサギの獣舎拡張工事を行っておりまして、春には広くなったところに一部移動することができかと思っております。

今年度も 2 か月弱で終わろうとしておりますけど、引き続きしっかり取り組みを進めてまいりたいと考えております。

そして本日の議題ですけれども、まず昨年 11 月 1 日の市議会で最終認定された市の決算のうち当園の決算概要、そして現在の動物福祉部会と認定動物園支援事業部会の審議状況、それと第 2 次実施計画の取り組み状況と動物の転出についてご報告したいと思っております。

皆様にはどうか、幅広い観点から忌憚のないご意見をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

【寺島保全・教育推進課長】

それでは早速議事に入らせていただきます。以降の進行につきましては吉中議長にお願いいたします。よろしくお願い致します。

【吉中議長】

皆さんこんにちは。今日もよろしくお願い致します。それでは次第に沿って進めていきたいと思います。どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いし

ます。

では、事務局から決算概要についてご説明をお願いします。

【伊藤経営係長】

それでは資料 2「円山動物園に関する令和 5 年度の決算について」をご覧ください。

まず (1) の上段の歳入について、令和 5 年度予算が合計で 4 億 7439 万 9000 円ほどであったのに対し、令和 5 年度決算が 4 億 6851 万 8000 円ということで、予決差でマイナス 580 万円程度ということになっております。内訳の方を見ていただきますと、入園料が令和 5 年度予算で 3 億 9777 万 3000 円だったのが、令和 5 年度決算で 3 億 9962 万 9000 円ということで、入園料として当初予算よりも 180 万円程度の収入があったということになっております。欄外に注釈で令和 5 年度入園者数 86 万 5610 人ということで書いてありますが、令和 5 年度の予算を立てた時点では 94 万人ほど来ていただけるのではないかと見込んでおり下回りましたが、想定よりも有料のお客様の割合が小中学生などの無料のお客様より高かったということが原因で決算としては思った以上にプラスになっているという現状でございます。

続きまして歳出に行きたいと思います。合計ですと、令和 5 年度予算が 17 億 5646 万 9000 円程度でございましたが、令和 5 年度決算で 16 億 9874 万 8000 円程度と予決差でマイナス 5700 万円程度になっております。特にご覧いただきたいのは、動物園運営管理費の中の一番上、動物園経営費 (B) と書いてあるところですが、予算で 6 億 7556 万 2000 円だったのが、決算で 6 億 5815 万 9000 円ということで、予決差でマイナス 1700 万円程度になっておりますが、こちらが動物園を運営していく上での生活費・運営費となり、1700 万円程度節約して運営できたといったところになっております。

一番下に参考として、動物園経営費に占める入園料の割合、要するに今ご説明した我々の収入と運営していく上での運営費、生活費に当たる動物園経営費に占める入園料の割合を計算したものになります。過去 5 年度分出てますけども、令和元年というのがコロナ前、正確に言うと令和 2 年の年明けすぐからコロナが流行ったかと思いますが、ほぼ影響のなかった令和元年度から比較のために掲載しております。その当時がこの動物園経営費に対する入園料の割合が 49.2%だったのでおよそ半分ぐらいが入園料で賄えているという状態でした。令和 2 年度に一般の入園料を 600 円から 800 円に値上げをさせていただいたのですが、ちょうどコロナが本格的に流行り始め、ここから先パーセンテージで言うと 32%、次の年が 25.2%というように収入が少ない時期が続きましたが、令和 4 年度決算でようやくコロナ前と同じぐらいの 49.7%、今回、令和 5 年度決算が 60.7%ということで、コロナ前よりも収支としては改善しているといったところです。ようやく今になって、コロナ前の水準に比べても値上げをした効果が出てきたと認識しているところでございます。

簡単ではありますが以上でございます。

【吉中議長】

どうもありがとうございます。

それでは今ご説明いただいた令和 5 年度の決算について、ご質問ご意見あれば、どうぞよろしく願いいたします。

【細矢委員】

歳入のところで先ほどご説明のあった入園料について、実際の入園者数は予定よりも少なかったけれども、有料入園者数が増えた関係で入園料自体は増加というご説明があったんですけれども、有料入園者の内訳として、例えば外国の方が増えたなどの分析をされているのか教えていただきたいです。

もう一点、今回歳入の決算を見ますと、合計で 4 億 6800 万円、来年度の予算で 5 億 3600 万円というふうにかなり予算を増やしていると、その内訳として入園料を 4 億 5200 万円とかなり増えてるんですけれども、これの根拠がありましたら教えていただきたい。

以上です。

【伊藤経営係長】

ありがとうございます。

まず有料の入園者数の内訳につきまして、窓口で売っている関係で個人情報まで取得できておらず、国籍や観光客が多いとかまでは細かく分析できていないのが現状です。ただ外国人の来園者数は肌感覚としては増えてきてるかなとは思いますが、特に今年度はインバウンドの回復の効果がさらに出てくるかなとは思いますが。

予算の関係ですが、今年度予算につきましては、昨年 7 月の市民動物園会議のときにご説明していなかったかもしれないのですが、令和 5 年度は 94 万人を見込み、令和 6 年度予算のときは 102 万人を見込んでまして、その 102 万人というのがコロナに入る前の動物園のピーク時の入園者数ぐらいになりますので、そこまで回復すればという数字になっているので、大きな数字で見込ませていただいているところです。

以上です。

【能代委員】

素人の考えですが、今年度の入園者数が 86 万 5000 人ということですよ。例えば、旭川市の旭山動物園では令和 5 年が 129 万人ということで、この差というのは何なんだろうかなと。旭川市の人口は約 32 万人で、札幌市の人口は約 196 万人ということで、そうするとこれだけ人口が多い札幌市の中で、この入園者数というのはあまりにも少ないのではないかと思います。

それが結局、予算に対する支出の割合がかなり高くて、単純に言うとかかなり赤字を抱えている状態であるということで、この改善策として少しでも入園者を増やすというところにつ

いては、どういう形で協議するのかなというのが疑問に思いました。また、ここの委員になった際にはどうしたらたくさんの入園者が来るかということをこの場で話し合いがあるのかと思っていたのですが、3回ほど参加する中では、報告を受けてそれに対する意見を述べるだけで、そういう論議をするっていうのはない。どういう形で論議するのかが気になりましたし、やはりこの差というのはかなり大きいのではないかと思います。一生懸命やっただけで、そういうのもわかりますし、動物福祉も本当によくやっただけで、ここの動物園はすごくいいと思ってらるんですよ。旭山動物園と比べてもそんなに遜色ないと思うんですが、それを発信する魅力、来てもらうところをもう少し工夫できないだろうか、値上げしても収入的には足りないわけですから、そこを工夫できないのだろうかと思いました。

私なりの発想ですけど、例えば、旭山動物園とここの違いとしては駐車場だと思います。車で来る方がやはりある程度限られますので、地下鉄からここまでの移動の方法の工夫があつていいのではないかと。円山公園駅から動物園まで来るバスはラッピングなどして動物園に行くバスだという雰囲気はあるのですが、例えば横浜市では、ラッピングだけではなくてバス自体が動物の形をして、見るからに乗りたいたいというようなバスを運営しています。来るまでも子どもたちが楽しめるようなバスというのはできないだろうかとか、それから今、バスの自動運転が札幌市でもこのあと進むのではないかと思いますけども、そういうものを走らせるということも一つの方法ではないだろうかと思いました。ただお金がかかりますから、そういう点についてはクラウドファンディング等を利用するのはどうかと思いました。

それから、アンケートについて、園内の人に対するアンケートは取っていてかなり高い評価をいただいていると思いますが、外部の人はどうなんだろうかと、先ほど言いましたが196万人がいるのに来園する人数が少ないわけですから、その辺のところの外部調査、例えば、小中学校単位で調査をしてみるとかも必要じゃないかなと思いました。以上です。

【伊藤経営係長】

どうもありがとうございます。

先ほど私から50%ぐらいとか60%とかという動物園の支出と収入の割合についてご説明させていただきましたが、円山動物園としてはここを半分以上を賄うことを目標に運営しており、もちろん十分ではないというご議論もあるかとは思いますが、この60%という数字については、旭山動物園は特別良い数字かもしれませんが、他園と比べると悪い数字ではないと認識しているところです。経営状況については一旦そのように考えております。

【小菅参与】

旭山動物園と円山動物園の入園者数の比較ですけれども、人口で考えたら札幌市は200万人近くいて、旭川市は30数万人ですけれども、実は旭山動物園の入園者数のほとんどは観光客です。しかも海外の人たちが押し寄せる場所、要するに北海道というイメージと雪の

中というイメージが海外の人に非常に人気があるようで、その入園者数が全体の数を押し上げています。ですので市民の皆さんの利用については、私は旭川市民が何度も動物園に来園しているかという、決してそんなことはないと思っています。今、係からも話がありましたが、この収支、要するに経常経費を利用者数で比較する値で 60%っていうのは、全国の公立の動物園から見てもかなり高い数字になってるんですよね。そういう意味で、立地条件よりも来園者の層が円山動物園と旭山動物園では全く違うので、これは一律に判断できないだろうとは思うんですよね。一方で、同じように海外の人たちが円山動物園を選択してくれるようになるにはどうしたらいいかというのは、そのために何かするというよりも、やはり委員がおっしゃった通り、海外にも発信する力を強めていく必要があると思います。最近、円山動物園は確かに海外の人が多いです。ヨーロッパやアメリカの方もかなりいますので、これからそういった方への広報方法というのでも考えていけば、少しずつそちらの方面も伸びていくかなと思っています。海外のお客様のために何ができるかという、結局、動物園の主体としては今のままでいいと思うんですけども、問題は広報にどのような手段があるのかとか、そういうことを検討していくのがいいのかなと思ってますので、その違いについて、ぜひご理解いただければと思います。

【細矢委員】

また入園者数の話を確認したいんですけど、先ほどの話の中で有料の入園者数について、肌感覚では外国人が多いと言われてたんですけども、やはりこういうのは現状をきちっと把握することが先決ではないのかなと。その上で、係の方がピンポイントでもいいですから見て、中国の方が多いか、アメリカの方が多いかということを、ある程度統計的に取ってみて、例えば中国の方が多くなったら春節の時期で増えたなど、そういう分析に移っていきえるだろうと思うんですよ。ただ単に肌感覚で増えたとか、このままいったらコロナ前にまた復活するんじゃないのかなとか、そういうのは大変失礼な言い方ですけども、今後の予算を組むにあたっては理論建てたものが必要じゃないのかなとは思っています。

【小菅参与】

旭川市でも同じことを言われましたが、これは難しいです。向こうの意思で、私はどこの国ですと伝えられて記録することは問題ないが、こちらから確認することは、市としてはできないという見解でした。

【松原委員】

決算中心のお話をさせていただきます。簡単に言えば、歳出の予算決算の関係ですけど、ほぼ節約したということですから、事業者としてみれば素晴らしい決算書だと思います、相当な苦勞があったと思います。

私が 2 点ほど言いたいのは、世の中の成長が悪くなってるということにエネルギーも影

響されてるという中では、物価高騰、燃料費高騰、電気ガス軽油あたりの節減はされてると思うんですけども、令和 5 年度ではすでに影響が出てましたから、その結果として黒三角（▲）で節約したというあたりのご説明をいただきたいと思います。

それから、私は大倉山ジャンプ場の運営委員をやっているのですが、先ほどの入りの関係から言うと業績を伸ばしたいわけで、リフトに乗って展望台まで行ってもらいたいとか、さまざまなアラカルトはチャレンジしてるんです。そういった面で見ると、やはり広報の話が大きいというのはもちろんそう思います。ロケーションからいえば、円山公園駅から円山動物園までの距離は、外国人にとっては楽しみながら簡単に歩きます。

また、動物園と大倉山ジャンプが連携した「くらまる号」にあれだけの外国人が利用しているのを見ると、この施策は大成功だと思ってます。ですので、販売促進活動などいろいろな取り組みって言うのは引き続き評価も含めてあれば良いと思ってます。

それから、3600 万人の外国人が入ってきてるっていう中では、この入園料の見込みが 4 億 5200 万円という金額が書いてますけど、6 年度で言えば、この数字は簡単にクリアするんじゃないのかなと思います。そうすると、一番下の参考で入園料の割合で、動物園経営費はおそらく高騰するから、決算はこの通りにはならないと思いますけど、この決算 6 億 5800 万円で率を出すと 6 年度の予算の数字でいくと 68%ぐらいと非常に高い。そういった意味では本当に 6 年度の決算が楽しみなんですけど、若干私の足りない部分、専門的な知識も含めて補填してくれればいいかなと思ってます。よろしくお願いします。

【伊藤経営係長】

燃料費等の物価高の関係ですが、令和 5 年度は市役所全体としても光熱費が上がったということで、補正予算を組ませていただいて、途中で値上がった分を予算に足して作っています。ただし、動物園としては餌などの物価高や水道光熱費の節約ということもありますので、いろいろと工夫は重ねた結果、補正予算は組んではいるんですが、結果的には 1700 万円ほど節約ができたという取り組み状況になっております。

また、広報などにつきましては今後いろいろと検討させていただければと思います。

【吉中議長】

お手元に令和 6 年度事業概要という冊子もお配りいただいていますけど、その中に有料入園者数の月別の数とかも出ていますので、どのぐらいの割合が成人であって、子ども料金で何人ぐらいかっていうのはおわかりいただけるかと思いましたが、後でご覧いただければと思います。

それから、どこから来られた方なのかを網羅的に市として調べるのは無理だというお話をいただきましたが、何かサンプル的にそういうことをできないかなと考えてまして、全く強制ではなく、来た人がボタンを押せばどこから来たかわかるような仕組みとかいろいろあるかなと思ったのと、例えばうちの大学の卒論研究が何かでアンケート調査みたいなことを

させてもらって少しでもお役に立てるようなことができていいなと思ったりしておりますので、またご相談させていただければと思います。

それから能代委員がおっしゃった入園者数をどう増やすのか、魅力をどう増やすのか、それをどこで話せばいいのかというご質問だったと思うんですけども、まさにここで話していただきたいと思っています。ここでいただいたご意見を動物園で受け止めていただいて、これから活用していただけると私は思っておりますので、どんどんそういうご意見をいただければありがたいなと思っています。

【相原委員】

すごく丁寧にご報告いただきまして、経営成果全体として向上しており素晴らしい反面、歳出をかなり厳しく抑えられてるなと思っています。本来かけるべきところにはかけて、かけなくてもいいところは絞っていくというのが大事だと思います。これだけコストコントロールしている中で、実際現場の感覚としてかけるべきところにはかけてるのかという点がすごく気になりました。そのあたりのお話を教えていただければと思います。

【柴田園長】

経常的なもので、水や餌というものは節約できないものだとは認識しております。水替えをやめた途端に状況が悪くなったという事例もあります。エサは必要な種類を、例えば物によっては輸入したり、本州から取り寄せたりということが必要でございます。修繕関係であれば、本来は外注して直したい部分を専門でできる職員が自らやっている部分があったり、また、来年度に実施することでもいいものを精査したりと工夫しながらというところは、実際にはございます。

【吉中委員】

それでは後ほどご意見あれば伺うとして次に移りたいと思います。

次が各部会の報告ということで、二つの部会からご報告をいただきたいと思います。まず円山動物園動物福祉部会からご報告をお願いいたします。

【林飼育展示三係担当係長】

資料3をご覧ください。市民動物園会議各部会の審議状況についてでございます。

1の円山動物園動物福祉部会につきまして、ご報告いたします。(1)の開催状況ですが、第6回の部会を令和6年11月14日に開催しまして、議題は「令和5年度動物福祉評価について」「野生動物に直接接する機会の取組状況の報告」でございました。

資料4をご覧ください。令和5年度円山動物園における動物福祉評価についてでございます。令和5年度分の動物福祉評価を動物園条例および動物福祉規程に基づきまして、円山動物園が行う自己評価と動物福祉部会による外部評価による2段階で実施いたしました。

外部評価は書面での評価に加えまして、実際に獣舎での飼育状況をご確認いただく、現地評価を行いました。

資料４の１、自己評価の（１）評価対象種でございますが、令和５年度末で飼育していた１４０種、内訳は哺乳類が５５種、鳥類３３種、爬虫類４２種、両生類１０種、これらを対象にしております。

（２）評価方法ですが、まず一次評価を昨年１月から３月で、飼育動物種ごとに、今回は飼育担当者がまず実施し、それを所管する飼育係長や各係のリーダー、サブリーダーで確認を行いました。前回の令和４年度評価の際は、飼育係長が一次評価を行いました。今回は飼育担当者に動物福祉評価を当事者として捉えてもらうため最初の段階で飼育担当者自身が評価することとしました。その後、哺乳類、鳥類、爬虫・両生類ごとに取りまとめ、２次評価を昨年８月に、園長以下で構成する動物福祉評価委員会で実施いたしました。

（３）結果概要でございますが、アの総括で改善が必要（×）と自己評価した項目数は哺乳類１１項目、鳥類４項目、爬虫・両生類及び動物園の組織評価はなしということでした。改善が必要とした主な項目ですけれども、種による生活様式に応じて、その特性に合った飼育方をしていたかは哺乳類で、その種にとって適切な密度で管理されていたかは哺乳類と鳥類で、飼育施設が全ての個体に十分な隠れ場所や逃げ場所などを提供するように配慮されているかは哺乳類と鳥類で、動物の輸送または移動の際は適切な計画が策定されていたかは哺乳類で、実施した環境エンリッチメントについての記録およびその評価見直しを行っているかは哺乳類で挙げられました。イの動物種ごとの自己評価ですが、参考資料のとおりでございますが、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類ごとに改善が必要な×、あと改善の余地がある△と判断された項目と動物種の数をご参考資料としてお配りしております。動物園組織の評価についても入っております。

２の外部評価ですが、９月に部会委員の皆様はこの参考資料の他、全１４０種分の評価とそのコメントが入った資料をご確認いただきました。その上でご意見ご質問、ご助言を頂戴いたしまして、１１月の部会において外部評価は以下の通りとなりました。

まず（１）自己評価への評価結果でございますが、引き続き、動物種の特性に合った飼育方、適切な密度での管理および十分な隔離場所の確保など動物にとって良好な飼育環境の提供に努めること、あと同じ水準での一次評価となるように、評価方法やチェックリストの項目を検討する必要があるというふうにいただいております。

（２）現地評価につきましては、アの対象施設ですけれども、部会委員の皆様から実際の獣舎を見る必要があるとご希望がございました、キリン、ヒマラヤグマ、レッサーパンダの獣舎といたしまして、１１月の部会の折にご確認いただきました。イの主なご意見、ご助言等ですが、見ていただきました獣舎については特に問題ないということでしたが、現地評価中に多くのご助言を頂戴いたしました。まず動物にとって良好な飼育環境の提供に努めるにあたってということでは、生息地と全く同じ環境で飼育をするわけではないので、生息地の環境を再現できていないからといって、動物福祉が損なわれていると評価するので

はなく、動物の行動などのアウトプットを把握し、その動物に適した環境になっているかどうかを評価することが大切である。動物園では動物に選択肢を用意することが、動物福祉の向上に必要である、その動物種の野生の生息環境を知ることは大切だが、野生下では、動物はさらに自分が快適なところ、いわゆる微気候を選択して生活している。マニュアル、ガイドラインを鵜呑みにせず、動物に選択肢を与えるということも大切である。あと動物の寝室が隣り合って並んでいる場合は、一方の個体が檻越しに攻撃をした際に、もう一方の個体が嫌である場合は、逃げたり隠れたりできるようにする必要がある、動物にとって来園者がいる状況が当たり前でストレスを感じていないようであれば、基準に沿った環境整備をするかどうかは慎重に検討する必要がある。例えば隠れ場所を作ることで、飼育スペースが狭くなり、行動の制限が出てくるようであれば、動物の状態や様子を見ながら優先順位をつけて対応する必要がある。あと動物が出産を控えているために観覧制限を行って静かな環境にしたものの、来園者がいる状況が当たり前になっており、逆に落ち着かなくなることもあるため、飼育環境の改善による動物の状態や様子の変化を見ることが大切である。続きまして、動物福祉評価の方法、指定についてということで、動物福祉評価は、飼育動物の状態や様子がどうなのかを見て判断評価しなければならない。展示場を広く改善したところ、そこに長く暮らしてきた高齢動物が落ち着きを失うようであれば本末転倒であり、動物が心身ともに良い状態で飼育できているかというアウトプットの部分を見ることが重要である。あとは各評価項目に対して、評価の付け方およびポイントを評価者に示すと良い。

以上の通り、ご助言を頂戴いたしました。いただきましたご助言を今後に生かしてまいりたいと思っております。

3の本評価の実施経過および予定ということですが、今回の令和5年度評価につきましては、3月に当園のホームページで公開予定です。動物福祉部会につきましては以上でございます。

【吉中議長】

今の件に関しましてご質問あるいは補足のご意見ございましたらお願いいたします。

【有坂委員】

質問ですが、参考資料の上から2番目にある災害発生時の動物の避難方法の確立、餌の備蓄等の対策をされているかというところで、「十分な備蓄はない」とありますが、「十分な備蓄がある」という状況は可能なのでしょうか。例えばどういう状況が十分な備蓄があると言えるのかなど。餌は生鮮物が多い気がするのですが、どうなったらこれは改善されるのかと疑問があります。

【柴田園長】

生鮮物は貯蔵庫の規模によって変わってきますので、限界があります。一方、貯蔵ができ

る飼料はありますので、できうる限りということです。実際に災害が起こったときには、動物園水族館同士の連携というのがありまして、過去に私どもも東日本大震災の際は仙台市に野菜を空輸させていただくことができた事例もあります。そのように連携をするということに日本動物園水族館協会ではなっております。

【小菅参与】

阪神淡路大震災の際に大阪の人が協力して神戸に生鮮の野菜や肉、魚を持って行ったんですが、有志が行ったもので行くこと自体を阻止されることもあり、その反省があって、日本動物園水族館協会が災害時にこういう体制をとるということを事前に作っている。東北が被災したときはすぐに機能して、公的に日動水協が動いた。お金はそれぞれ年間の寄付や個人的な寄付でやるんですけど、それでトラック便で行けるところから行って、秋田や盛岡などの動物園でも野菜・魚不足に陥らなかった。それでも危ないと思ったら、水族館が特にそうですけど、一度移動させて、安全になってからまた戻すとか、そういう体制も組めておりますので、大きな災害時には全体としての協力っていうことはできるようになっている。園長が言ったように、一つの動物園で備蓄したら、廃棄する方が多かったりするので、そういうことではなくて全体として体制を組んでいるというのが実情であります。万全とは言えませんが、結構安心できるかと思います。

【有坂委員】

そういった連携体制の実情みたいなことは参考事項に書いていただけるといいかと思います。

【小菅参与】

北海道の4園は密に連絡がとれている。動物のことだけではなくて、経営とかも含めて。そういう意味ではしっかりやれるんじゃないかなという安心感があると思います。

【細矢委員】

言葉の意味がよくわからなくて教えていただきたいんですけども、外部評価（2）の現地評価のイの二つ目、その動物種の野生の生息環境を知ることが大切だが、野生下では動物はさらに自分が快適なところ、いわゆる微気候を選択して生活している。マニュアル、ガイドラインを鵜呑みにせずに選択肢を与えることも大切であるという。自分が快適なところを選ぶということと微気候という言葉の意味を教えていただければと思います。

【林飼育展示三係担当係長】

日動水で飼育マニュアルのようなものがあって、この動物種であれば、適温は25度であるなど書いてあり、その通りを目指す、その動物がいる部屋全体を均一の温度にするとい

うことは事実上ほぼ無理な状況であります。その温度になってるところもあれば、それより低いところも暑いところもあって、ただそれをなくそうというのも大事なんですけど、動物もそのマニュアルで適温とされてるのが本当にいいかどうかっていうのは言い切れません。個体によっては人間でもそうですけれども、その人にとってちょうどいい温度、室温は違うわけで、動物も同じなんですよね。そこを動物に選んでもらうというのも一つの動物福祉でございまして、この微気候はあまり聞いたことのない言葉だと思うんですけど、そのような意味でご助言いただきました。

【柴田園長】

林係長の言った通りですけれども、普通の気候というよりも、どちらかというともっと小さい場所での居住気候というような意味で委員は説明してくださいました。例えば温度でしたら適温の 25 度を室内全部 25 度にするんじゃなくて、樹木を生やして少し涼しい木陰をつくる、ここは温かいところ、スポットにするという形で、その日その日で動物が選べるように、温度一つとっても平均 25 度ですけど、バリエーションを持つというのがその居住の微気候という、風・湿度なども含め、作り出す気候という意味だということだそうです。

【松原委員】

評価っていうのは非常に難しい話なので、何を見て評価するのかというのは、色々あると思っております。この中で私が感じたのは 3 月にホームページに出るわけですからこれまでにいただける回答とホームページに載るものは別だと思ってて、一番冒頭の 2 行目に基準に沿った環境整備をするかどうかは慎重に検討する必要があると書いてるから、本当に環境をきちっと直したり改善したり改修したりっていう部分は、目標値という基準は持つてると思うんですけど、それが達成されてないから、慎重に検討するというまとめ方だと思うんですけど。ということは、これまでに挑戦事例っていうのがあるのであれば、もう少しわかりやすく解釈できるようにした方がいい。ないのであれば、逆にこういうことをやってみなければ前に進まないで、そのような表現っていうのはあってもいいと思いました。

それから、参考事例の中で、見たときに△が気になるんですよね。△が 4 つあって、3 つ目の獣医師が確保されているかについて、今の表現だと伝わらないので、ベースは何人ですけど、現在は何人いるからそれが目標値から見たら 3 人足りないとかっていうことだと思えますけど、前年度からは改善してないけど取り組んでいるんだよって捉えていいのか難しい。前年通りや従前通りという表現は新しい人は何を言っているのかわからない。

そしてもう 1 つの△である施設外からのキツネやタヌキの侵入が書いてるけど、どちらかというと、カラスを中心にした野鳥も具体的に書けばいいのかと思いました。

【吉中委員】

どの資料を公表されるのかわかりませんが、誤字もあるので精査していただければと思

います。

【有坂委員】

先日、下関の水族館のマンボウが、お客さんが来ないと孤独になって体調が悪くなることがわかり、人形のようなものを水槽の前に置いて対応したというのがニュースになっていました。見られすぎるのが嫌だというのもあるし、お客さんがいないと嫌だというものもある。これは、種で異なるのか個体差なのか、どのように評価するのでしょうか。

【林飼育展示三係担当係長】

個体差になります。その種が全部そうだとはいらない。我々も飼っている動物の各個体の状態を見て対応すべきであると、この部会で先生方にご助言いただいています。

【吉中委員】

外部評価のご意見のいくつかは、そういう観点からのご意見かと思って読んでおりました。

続いて、もう一つの部会、認定動物園支援事業部会のご報告を事務局からお願いします。

【石田推進係長】

私から認定動物園支援事業部会の開催状況につきまして説明させていただきます。

この部会は、「さっぽろの動物園ステップアップ制度」に基づいて市内の施設から認定動物園ないし準認定施設への登録申請があった場合に、その認定可否の審議をいただくという部会になります。したがって、申請がなければ部会の開催はないということになりますが、昨年12月に市内1施設から、準認定施設の登録申請がございまして、今年の1月20日に準認定施設登録申請に関する書類審査を実施させていただいたところでございます。

審査につきましては申請施設が提出する申請書類の書類審査と、実際にその施設に行つて実地で審査をする実地審査という2段階の審査をさせていただいております。今後の予定ですけれども、来月2月に実地審査をさせていただく予定でございます。その後、その審査を経て、市民動物園会議認定事業部会の方から答申書をいただきまして、申請事業者に対し審査結果の通知を3月にさせていただく予定でございます。それ以降につきましては先ほど申し上げましたとおり、認定登録の申請がある都度、部会を開催させていただきたいと考えております。

続いて、(3)のその他ですけれども、この認定事業部会の開催と直接リンクするものではありませんが、「さっぽろの動物園ステップアップ制度」では認定動物園及び本市の生物多様性担当部局とともに保全活動連携協議会を設置することとしております。現在、認定動物園になっている施設はないので、この協議会の設置も今時点では見込まれておりませんが、昨年3月に札幌市豊平川さけ科学館が準認定施設に登録されておりますので、この保

全活動連携協議会の準備会を来月 2 月に開催し、各施設の保全事業につきまして意見交換をさせていただく予定であります。

認定動物園支援事業部会の開催状況等については以上でございます。

【吉中議長】

では今のご説明に対してご質問ご意見ありましたらお願いいたします。

～特に意見なし～

それでは、ご質問がないということで次に移りたいと思います。

続いて、議題の 4、札幌市円山動物園ビジョン 2050 第 2 次実施計画の取組状況についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。

【石田推進係長】

資料 5 の重点取り組み分野の数値目標と達成に向けた取組に沿って説明させていただきます。前回、昨年 7 月の会議では、こちらにあります 11 の重点取組項目について今年度の取り組み目標をご説明させていただいたところでございます。今回はそれぞれの項目の 12 月までの取組状況について、この資料に沿ってご説明させていただきたいと思います。

まず上から 1 点目、動物福祉分野に係る今年度の取組ですけれども、こちらは 2 次計画におきまして、動物福祉評価について令和 10 年度までに改善が必要、改善の余地があると評価された項目の割合を全項目の 5%以下にするという目標を設定しております。毎年、動物福祉評価を行い、改善していくという項目なので、単年度ごとの取組目標は設けておりませんが、取組状況につきましては、先ほど林係長からご説明させていただいたとおりでございます。今年度実施しました令和 5 年度動物福祉評価では全項目のうち、改善が必要、改善の余地があると評価された項目の割合は 34%という結果でございました。昨年度実施いたしました令和 4 年度評価の 21.2%と比べ改善が必要な割合が増えたという状況ではあります。これは先ほどの説明にもありましたとおり、令和 4 年度評価では、飼育担当の各係長が評価をしていたところ、令和 5 年度評価は各動物の担当飼育員が評価したというふうに、令和 4 年度評価と令和 5 年度評価で異なる評価者であったという点、また前回の評価項目に入っていた飼育施設の排水設備が適切かといった、個々の動物の福祉評価には直接なじまないという項目を今回外したというところで、項目数の分母が減ったということが要因であるというふうに考えております。

続きましてその下 2 点目、保全分野の令和 10 年度までに累計 5 羽の放鳥をモニタリングするという数値目標についてです。今年度は、令和 7 年度の放鳥を目指し、放鳥地の地域の方といった関係者との合意形成やトレーニングゲージの修繕などに関して検討することを目指しておりましたが、先の 11 月に札幌と釧路でシンポジウムを開催したところでございます。また費用が工面できる範囲でトレーニングゲージの修繕も実施しております。

続きまして 3 点目、認定動物園等への研修会実施件数年 2 回という目標についてです。こ

こちらにつきましても先ほどご説明させていただいたとおり、この研修会は認定動物園に対して行うものであるところ、現在、認定動物園となった施設はないことから、研修の実施は見込まれていない状況でございます。一方で、令和6年度は豊平川さけ科学館が準認定施設になっておりますのでこの施設が認定動物園を目指すにあたり、飼育マニュアルの作成を予定しているといったことから、作成に関する必要な助言や情報提供を行うなどの連携協力をしていくということとしておりました。また、認定動物園を目指す市内1施設について、令和6年度内の登録に向けた協議調整を進めるということも取組目標にしておりました。この目標につきましては、先ほど申し上げたとおり、研修会の実施は現在のところ見込まれておりません。また、準認定施設の登録申請状況につきましても先ほどご説明させていただいたとおりでございます。そういった状況であります、来月は準認定施設である豊平川さけ科学館と保全活動連携協議会に向けた準備会を設置し、必要な意見交換を行ってまいりたいと考えております。

続きまして4点目、教育分野の項目ですが、園内イベントへの参加を通じて、生き物と人との関わり方の大切さを理解した人の割合を令和10年度までに100%にしていくという目標でございます。こちらにつきましては、園内のイベントなどで生き物と人との関わり方の大切さへの理解を進めるプログラムを提供し、じっくりと生き物を観察してもらうような動物観察プログラムや子どもの1日飼育係といったプログラムを通じて、生き物と人との関わり方の大切さを理解してもらうということで取組を進めてまいりました。12月末までに今日からザリガニ博士という体験プログラムを5回実施したほか、子どもの1日飼育係は延べ6日開催したところでございます。

次に、調査研究分野でございます。ホームページ掲載の調査研究報告書などの閲覧回数を令和10年度まで毎年増加させるという目標についてです。今年度は調査研究報告書等を掲載するホームページを新たに作成し、報告書等を随時更新していくことで、閲覧回数の増加を目指したいと考えてきたところでございます。ホームページにつきましては、既存の研究ページを調査研究のページに新たに更新いたしまして、先の12月に糖尿病のクロザルの症例に関する論文を掲載させていただきました。閲覧回数は掲載後12月末までで683回という状況ですが、各ページの閲覧回数は、ひと月ごとに札幌市の方で集計を行っておりますので、適宜確認してまいりたいと考えております。

続きまして、リ・クリエーションの分野についてです。まず一つ目の円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合を令和10年度までに75%にするという目標につきましては、来園者に円山動物園の魅力を感じてもらうことで他の人にも円山動物園を勧めてもらうということで、円山ZOOガイドや各種教育プログラムを通じて訴えていこうというふうに考えていたところです。今年度につきましては、12月末までで円山ZOOガイドは1日平均2.5回、教育プログラムは延べ199回実施したところでございます。なお、毎月100人の来園者の方を対象にアンケート調査を実施しており、そちらのアンケートの結果といたしましては、4月から12月の平均で97%の方に他の人にも円山動物園を勧めたいとお答え

いただいております。

次にリ・クリエーション分野の二つ目、円山動物園にまた来たいと回答した人の割合を令和10年度までに79%にするという目標についてです。今年度は、観覧環境の充実を図ることでまた来たいと思っていただけるようにするため、園内掲示物やリーフレットの見直し、来園者から寄せられたご意見への速やかな改善対応に取り組んでまいりました。12月末までの具体的な取組状況でございますけれども、4月と11月に平日5日間休園週間を設けておりますが、この休園週間を活用して園内掲示物の一斉点検を行い、内容が古くなっている看板や展示サインを確認し、順次更新しているところでございます。また、来園者から寄せられたトイレ個室で服が掛けられてなくて不便だったというご意見をもとに、荷物掛けフックを設置いたしました。このほか、まるっばというお子様が遊ぶ遊具を設置しているの場所について順番待ちが難しくてちょっと危ないというご意見があったので、順番待ちをしてくださいという看板を設置するといった対応をさせていただいております。なお、来園者100人へのアンケートでは、昨年4月から12月の平均でまた来たいと回答していただいた方の割合は97%という状況でございます。

続きまして、基盤整備の分野でございます。こちらは持続可能な運営手法の導入を検討していくという目標に対して、今年度は経営基盤の安定化や基金の活用など持続可能な動物園運営のあり方について検討するという取組目標にしております。この目標に対しまして、他の動物園の調査事業の調査を開始しているところでございます。

続きまして、施設整備分野です。一つ目、園内施設の修繕必要件数が令和4年度は169ヶ所だったところ、令和10年度までに73ヶ所まで減らしていくという目標についてですが、円山動物園の各施設の老朽化が進んでおりますので、年々、修繕必要箇所が発生している状況でございますけれども、新たに発生していく中でも少しでも減らしていこうということでございます。こちらにつきましては、今年度は各修繕が必要な案件の優先順位、修繕方法をそれぞれきちんと決めていき、修繕を計画的に進めていくという目標にしておりました。このことに対し、当初の取組目標のとおり修繕を進めておりまして、12月末現在で修繕が必要な箇所は124ヶ所という状況になっております。

施設整備の2点目、施設保全計画の策定についてでございます。今年度は、外壁や屋上防水ポンプ、照明などの設備の長期修繕計画の策定に向けて、劣化調査を実施していくという取組目標にしておりました。この目標に対しまして、専門業者による劣化調査を現在実施しているところでございます。

施設整備の3点目、北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施という目標につきまして、今年度は大学などとの調査研究を進め、北海道ゾーンのコンセプトや取組内容、展示種や展示手法を検討していくという目標にしておりました。これに関しましては、12月までで園内担当者と野生動物の専門の方も交えた検討会議を延べ16回開催しており、北海道ゾーンにおけるコンセプト、飼育種、展示手法等を検討したところでございます。大学等の調査につきましては来年度に調査を委託する予定としております。第2次実施計画の取り

組み状況についてのご説明は以上でございます。

【吉中委員】

では、今の件に関しまして、ご質問あるいはご意見、ご提案どんなことでも結構ですのでお願いいたします。

【佐々木委員】

入園者アンケートで 97%という数字を聞いて非常に素晴らしいなと感動しまして、我々もいろいろなイベントなどを行うのですが、全てが無料イベントの場合の数値はすごく高いんですけども、有料でこれだけ入れている園で 97%という数字はちょっと感動しまして、私自身も先日ゆっくり見させていただいて、初めて来た友人と一緒に来園したのですが、非常に感動してもっと広めたいと感じました。素晴らしいものをしていただいているということであれば、広め方次第では、もっと増やしていけるなっていうのは肌でも感じましたし、この数字は我々も見習って、これは本当に数字が素晴らしいなと思いました。

先ほど能代委員からもありましたが、もっと人を来園させるためのアイデア会議という側面もあるのかなと思っていたのですが、なかなかそういう機会もないので、できれば次回でも議題の一つに挙げていただいたりして、それぞれ考えて持ち寄るとか、そういう機会もあったらいいかなと思いました。私もいくつか考えたりもしているんですけども、お子さんを持つお母さんお父さんなどの若い世代もすごく多く、その世代には、インターネット・SNS が思っている以上にすごい広まりがあるので、学生さんたちを使った活動ですとか、北大の学生さんと SDGs のことでセミナーとかワークショップをやりますと、私達が思っている以上に若い方々の感性、やり方っていうのを感じた部分がありまして、例えば何かゲーム性を持たせて子どもたちに広めるとか、IT 技術を駆使するとか、すごくいろいろなアイデアを持ってる方々がいるので、どこかに外注する予算を取るのが大変なことだと思うので、楽しみながらアイデアを出せるメンバーを選定してやってみたりするのがいいんじゃないかなっていうのも思いました。私達がわかるのは、Instagram や LINE とかで、Instagram は私も登録したのでたくさん見させていただいているのですが、他に札幌市の LINE とかだとプッシュ的に通知が来て、その中には必要な熱中症対策とかもあるものの、動物園から来てなかったなと思い、例えばこの赤ちゃんが生まれましたとか、札幌市の LINE から情報が届くといい。私達も札幌市と一緒にイベントやってるものをここに載らないのかと聞いたりするといろいろなハードルがあるので、全部が全部を告知してはくさらないみたいなのですが、市長の会見ですとかかたいものが多いので、たまに動物園とかがあったら行きたくなるとか、そういったアイデアも含めて、会議とかで出させていたらいかなと思いました。

【細矢委員】

今のお話 97%と素晴らしい数字だなと思うんですけれども、この来園者アンケートを取るシチュエーション、どういう形で取られてるのか、どういう方のどういうタイミングでアンケートを取られてるのか教えていただければと思います。

【石田推進係長】

来園者アンケートにつきましては、来園者が入園される正門と西門で入場の管理をするスタッフが無作為で 100 名に到達するまで何日かに分けてアンケートをいただいております。例えば 5 日と 10 日と何日とかそういう決めをしているわけではなく、そのあたりはある程度日にちに偏りがないようにということだけをスタッフには伝えていまして、それで 100 名の方のアンケートをとっているという状況でございます。

【細矢委員】

100 名の統計というのは多いのか少ないのかっていうのはあると思うんですけれども、一般的にはサンプルは 2000 件必要ですよとか聞いたことがありますが、100 名のサンプル数で正確に反映しているものなのかどうかっていうことも一つ検討する必要があるかという気がします。

【石田推進係長】

その母数については、従前から 100 名でやってきて統計的にある程度統一した並びになるかなというところでやってきたことなので、今のご意見いただきまして、客観的な数字になるのかということは検討させていただきたいと思います。

また、アンケート調査につきましては、先ほど能代委員からも来園者へのアンケートはあるけれども外部向けにはというようなご意見をいただきました。この点につきましては、今年度インターネットアンケートという来園者ではなくて、一般の札幌市民 500 人を対象としたアンケート調査を実施いたしました。一般市民の方々に円山動物園の保全活動や教育活動、調査研究活動をどの程度ご存知いただいているのか、また円山動物園の魅力を発信していくということが入園者増にも繋がる大事な取組ということで、こういった手法であれば我々の情報発信が伝わっていくのかというところ、普段こういった媒体で情報を取っていますかといった内容の質問項目を設け実施したところです。加えて、経営基盤の安定化というところで円山動物園応援基金を活用して寄附文化の醸成を図り、それをもとに様々な動物福祉向上に向けた獣舎改修等をしていこうと考えておりますので、寄附文化の醸成にあたり応援基金をどの程度認知いただいているのかといったことも確認させていただきました。このインターネットアンケート調査につきましては、年に一度、これから毎年実施することで、我々の活動の効果測定を図っていききたいとふうに考えております。

（事務局補足）～アンケートサンプル数について～

来園者アンケートは、当園の来園者数から評価に有効なサンプル数を計算して設定しています。

当園の年間来園者数を 100 万人と仮定した場合、アンケートの誤差（標本誤差）を±3% 以内にするためには、1,100 のサンプルを取ることで足りるため、現在の月 100（年間 1,200）件のサンプルで十分な評価ができると考えております。

【佐々木委員】

今ちょうど寄附の話が出たので、入園料 800 円でこんなに見させていただいて安いと思える人が多いという声をよく聞くので、入園のときに 1000 円払って寄附 200 円とやっていうやり方が良いのか悪いのかわからないですけど、今海外では寄附文化がものすごいですし、あと友達のアイディアですけど、すごい大満足したけど入園の際に 800 円払って 200 円のお釣りをもらって、帰りにお釣りを寄附していくとやっていうような制度にしたら満足度高くて、800 円は絶対だけど、1000 円払っておつりいらないうって人増えるよねとか、あと帰りに余裕ある方々が寄附のやり方を教えてもらえると。この間感動したのでいろいろ調べたら、動物の誕生日に Amazon 欲しい物リストでプレゼントを渡すような寄附のやり方をホームページで見て、自分が好きな動物に生かされてるっていうのが、そういうことがすごく響く世代の人たちも増えてきていて、若者たちが寄附文化に触れる機会の一端にもなると思うので、私達もそういうのは応援したいなと思いました。

ちなみに、大口の寄附ってありますか、小口の集め方が中心ですか。

【石田推進係長】

法人と個人それぞれからいただいておりますけれども、やはり個人の方であれば、大口は多くはない状況です。寄附文化の醸成に向けては、まずは応援基金について園内からきちっと発信していこうということで、もう少しわかりやすい掲示をして、こういう寄附を募集していますということを P R していこうということで現在作成しているところです。

あとは、海外の方から寄附をいただくために、寄附しやすい環境整備に向けてた取組も進めております。

【細矢委員】

プロスポーツでネーミングライツ、例えばユニフォームスポンサーですとか、そういう方法で企業からお金をいただいて、それでユニフォームを作ったりしているようなんですね。例えば獣舎のどこかに名前をつけるたりとかで企業とタイアップして、お金を集めるという方法もあるのかなと思い、ご検討いただければと思います。

【柴田園長】

獣舎のネーミングライツは過去にしたことがありました。また、企業のグループさんから、会社ロゴ・お名前の入ったユニフォームを寄附いただいて、ネーミングライツのようなことになりますが、やっていて、これを着用しながら頑張っています。

【有坂委員】

園内イベントの参加のところに関連して、バックヤードの案内は定期的にされていましたか。その際に何かアンケートを取るのはいかがでしょうか。子どもの1日飼育係が年間で6日間ということですが、もう少し体験する機会が増えた方が良いなと思いました。札幌市の小中学生が夏休み・冬休みに環境の取り組みをチェックするエコライフレポートというシートがあるのですが、その項目を見ると、家の中でできることしかなくて、全然生き物に関心が向かない内容になっています。そこをカバーするという意味ではないですけど、子どもたちの環境行動を促すとなると、省エネかゴミの分別かみたいになっていて、それだけじゃないよねいつも思います。生物多様性とか、自然に触れるとか、野外をわからないと自然を守りたいって思わないんじゃないかなと思うので、動物園はそういう機会を提供できる重要な施設じゃないかなとエコライフレポートを見て思ったんですね。子どもが参加できるイベントの回数がザリガニ博士も含めて11回しかありません。それ以外にも小学校の子たちが学校の授業で来ているなどあるとは思いますが、ふらっと来て体験できるというか、他の園館だとバックヤードツアーの予約が園内に入ると最初に出てくるイメージがあるんですが、そういう取組の可能性っていうのはないのかなと。

【柴田園長】

有坂委員のおっしゃったことがまさにそれで、生息地を見るということで、動物園の森を一般開放はしてはいないんですけど、森のボランティアがいるときには開放して、生息している野外の生物と植物を観察していただける、親子で入っていただけるっていう形で非常に好評です。

【有坂委員】

他の話にも関連するのかもしれませんが、円山動物園は博物館ということで規定されていると思うのですが、博物館がどういう施設かと考えると、知識なり体験なりを得られる場所、誰でも利用できるように敷居が低いことが重要になります。動物園の料金の話がありましたけど、800円というのはギリギリのラインだと私は思ってるんですね。それ以上にすると博物館の自由に誰でも知識や経験を得られる施設としてはちょっと苦しくなってくるかなって個人的に思っているんです。そういう意味でも、Instagramなど動物園のSNSでイベント情報を出されると良いと思いますが、ほとんど出てこない印象があります。

【佐竹保全・教育担当係長】

イベントの開催告知などは SNS で流したりはしていますが、ご指摘のとおり、どういふことをやりましたという開催報告はできてなかったなと思いました。先ほどのお話の補足ですけれども、今回の重点取組分野の数値目標に書いている今日からザリガニ博士と子どもの 1 日飼育係以外にも環境教育関係のイベントもやっていて、そのときにこの生き物と人との関わりを理解したっていうような項目も設けています。ただちょっと集計ができてないんですけれども、項目以外でも何かそういった触れ合いだったりとか、体験ができるような取り組みっていうのはこれからもやっていきたいなと思ってます。

【有坂委員】

動物園のイメージを変えてられていると思います。レクリエーションの場所、エンターテイメントの場所みたいな施設から、種の保全や、動物福祉が大事だよねというのをすごく積極的に発信していらっしゃる。円山動物園は先進的だと思うので、そのあたりをもっと出していくと、fan としての楽しいだけではなく、interest な感じの興味の持ち方で行ってみたいと思わせてもらえると嬉しいなと思っています。

【能代委員】

私を感じたことなので全部がどうかっていうのはありますけども、ボランティアの方々の知識が低いのではないかっていう気がしてます。キリンの前で、キリンのことは何でも聞いてくださいっていう方がいらっしゃるんですが、聞いたら全然答えられなくて、飼育員さんに確認してって言われた際には何のためにいるんだろうと思いました。これは一つの例でしかないのでもっとレベルの高い方もいらっしゃると思うのですが、せっかくいらっしゃるのであれば何でも答えられるっていうことが必要じゃないかなと思いました。動物園の森に孫と一緒にいったんですが、そこで何か説明してくれるかなと思っていたんですが、ただ見てくださーいみたいな感じで、ここにいる意味あるのかなという感じがあったので、ボランティアだからいいんだということではまずいと思うし、逆にマイナスの効果しかないような気がするので、できればもう少し事前の説明とか知識力のある人を選ぶとか必要じゃないかなと思います。特に日本でボランティアに頼ってしまうと、何でもかんでもボランティアって言ってしまいますけど、そういう説明は海外行ったらしっかりできますよね。そういう方でなかったらガイドさんはさせられないかってありますよね。そういうふうに持っていないとちょっと厳しいかなという気がしました。

【細矢委員】

私も森のボランティアガイドを 2 年ほど経験したことがあるんですけれども、そのときの感想を話しますと、森のボランティアやってくださいということで森が開放されているんですけれども、最初は特に植物のことは何もわからない状態で、どこかで勉強できるタイミン

グがあるのかなと思っていたんですけれども、知ってる方がいるのでついて行って覚えてくださいという感じだったんですね。いろいろ勉強しようと思って話を聞くんですけれども専門的で、ずっとやってる方の知識までいくためには座学できちっと勉強して、その上で実際にこれはこうだよということをインターンみたいな仕組みで行ってもらったほうがいい。実際に現場にすぐ入ってくださいと、そして来園者が来たときに先輩について行って話を聞きなさいぐらいの感じだったんですね。それでついていけなくなりました。ですからガイドをするのであれば、インターン期間みたいなものできちっとある程度の期間を勉強する、そういうことをやった上で先輩と一緒に回ってくださいねとかっていう形にしてもらわないと非常に辛いと思いました。

【吉中議長】

された方と受けた方で共通した意見と思いますけど、今は研修みたいなことはされているのでしょうか。

【佐竹保全・教育担当係長】

来年度からガイドボランティア、森ボランティアとして活動していただく方が決まって、先日から実際にボランティアはどういう活動をしているのかというようなことを体験してもらっています。例えば、来月に動物園の森でかんじきを履いて森を歩くという企画をやるんですけれども、その体験会を行ったりという形で、まずは導入の部分をスタートさせまして、森のボランティアは時々勉強会みたいなのを開催して、そこで一緒に学ぶというような形になっています。ガイドボランティアはボランティアの中に研修班がありまして、その研修班の人が、飼育員から詳しい話を聞こうというような会を設けたりと、そういった研修の場みたいなものを作るという形になっています。ただ、どのタイミングで実際にガイドをするのかというのは、ボランティアの中で判断していただき、実際にデビューするというような形になっているので、インターンのような研修体系にはなっていないんですけれども、その中でできる限りのことをやっていただいているというような感じかと思います。

【吉中委員】

来園者に一番近いところで接する方だと思うので、円山動物園の印象をまさに伝えていただける方たちだと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは続いて最後の議題ですが、転入転出繁殖死亡動物について事務局からご説明をお願いいたします。

【佐竹保全・教育担当係長】

資料 6 をご覧ください。転入転出繁殖死亡動物についてということで、前回会議のときに令和 6 年 6 月 30 日までの分をご報告させていただきましたので、今回は園内の確認タイ

ミングがありまして、昨年 12 月 19 日までの分をご報告させていただきます。

基本的には一覧の通りですが、転入動物はハリネズミやクロオオアブラコウモリ、それから 9 月 25 日はシロフクロウが大森山動物園から、また 10 月 23 日は同じく大森山動物園からユキヒョウのヒカリが転入しています。

転出に関しては、9 月 25 日にフクロウが帯広動物園に行き、10 月にはスンダスローリスがモンキーセンターに行っています。

繁殖動物に関しては、9 月にテンジクネズミ、アルマジロトカゲが出生しています。

死亡動物に関しては、7 月にコールダックの死亡、8 月にエゾユキウサギ、9 月にニホンザル、そして 11 月に入ってカバのザンが死亡している他、ヒツジのくるみ、シセンレッサーパンダのセイタなどが死亡しています。簡単ですがご報告とさせていただきます。

【細矢委員】

円山動物園の話ではなくて大変恐縮ですが、昨年、旭山動物園のライオンを繁殖目的で釧路市動物園に移動させたという新聞記事を見たのですが、釧路市動物園はそこまで広い敷地にライオンを飼っていなかったような記憶があります。以前に、生まれた子どもの行き先を決めてから繁殖させるというふうに聞いた記憶があるのですが、今回の旭山動物園から釧路市動物園に繁殖を目的に移動させたというのは何か事情があるのか、もしお分かりになれば教えていただければと思います。

【小菅参与】

今回、繁殖目的でライオンを移動したのか、細かい事情は知らないのですが、例えばライオンだったら一度に大体 3 頭前後産むので、いくつかの園館へ転出させる見込みが立ってから繁殖に向けて動いて、生まれてから大体 1 年未満で出すという方法をとるのですが、釧路市動物園が繁殖をするという意思表示をしたのかどうかというのは分かりませんが、おそらく満たしたということだと思います。特に公立の動物園ですので、将来も責任をもって飼育していくようなところにしか出せません。今は移動先を追跡できるので、なかなか責任を持って繁殖させるということをしていかなければいけないので、何か当てがあるのか、その辺はわかりませんが、ただ、ライオン全体のことを言えば、前回私がご説明させていただいたとおり、日本全体として展示するためのライオンを、将来に向かってどのような形できちんと遺伝的な多様性を持ちながら継続していくかというのがテーマなので、その中には繁殖するところもあればしないところもあるということの話し合いというのはもう何十年か前からされているので、釧路市動物園はその展望があって言ってるという気がします。

【有坂委員】

カバのザンが死亡してしまったということで、お父さんが一昨年亡くなったときは亡くな

るまでのプロセスと、亡くなった後どうしたかの説明をいただきました。動物園の皆さんの思いも伝わってきて、本当に私も胸がいっぱいになりました。今回はどうされたのが気になりました。カバは寿命が長いので死亡事例があまり多くないから、その死亡した後に解剖する機会がなかなかなく、大学などと一緒に解剖したとお聞きしましたが、今回どうだったのかを聞かせていただければと思います。

【柴田園長】

ザンは年々、高齢に伴って調子が悪いときもありました。8月くらいから食欲が落ちて、それでも回復しつつ、飼育担当者が懸命のケアをしていたのですが、最終的にはプールに上がらなくなった時期が出てきて、11月3日に死亡しました。その日に北海道大学の皆さんと解剖させていただいて、出血性腹膜炎を確認したところでした。

【有坂委員】

前回、その取組が素晴らしいなと思ったんですね。動物園にしかない動物がいると思うので、そういう貴重な機会はなるべく開いて、様々な研究機関などと一緒にやっていただけるのいいのかなと思ったので、ぜひ今後ともそういったことを続けていただければと思います。

【吉中議長】

トガリネズミの仲間がたくさん収容されていると思うんですけど、野外で捕獲されたオオジシギやヤマセミが持ち込まれてるのが、円山動物園としてそういう野外の傷病鳥を受け入れる受け入れないみたいな大きなポリシーとか考え方みたいなものがあれば教えてください。

【柴田園長】

傷病鳥獣に関しましては期間的に受け入れがストップする時期はあるんですけども、北海道庁や環境省から個別にお声がかかる場合があります。そういった場合に可能な範囲で受け入れることがございます。トガリネズミに関しましては、捕獲許可をいただいて道東の方に行きまして、生息地の方から展示繁殖目的で最小限の捕獲をさせていただくということをさせていただきました。

【松原委員】

動物の転入や死亡事例に関する直接の質問ではないんですが、私の出身地には津軽海峡を渡っていろいろな昆虫がきます。それと、知床の漁師さんに聞くと、鮭よりもブリの方が多く入ってくると言います。自然のサイクルがあるんでしょうけども、そういった中で温暖化についてお聞きしたい。動物園が限られた施設の中で、いろいろな環境だとか運動を調

整しながら取り組まれている中で相当な苦労があると思うのですが、今までは真夏日しかなかったのが、今では猛暑日も増えてきていますが、そういった面で動物園の費用などで苦労されているっていうことがあれば、市民に知らせる必要があると思います。苦労されている事例がありましたら教えてください。

【柴田園長】

暑さに弱い動物たちへのケアが必要となってまいりました。それで、いわゆる日射と温度を下げるための寒冷紗を、今年度はかなり早めに設置をして対策をとった動物たちがおります。その寒冷紗に関して、取り付けていきたいという情報を提供させていただいたところ、一部寄附をいただいた事例もありましたので、そういうありがたいご理解をいただいた部分もございました。寒冷紗を取り付けているのがアザラシのプールやモルモットの展示場の前、今は入院しているんですけどビーバーの体調が優れなくて寒冷紗やクーラーを付けさせていただきました。クーラーを使うための機器を Amazon 欲しいもののリストで挙げさせていただいたところ、すぐご提供いただけたということもありましたので、そういった意味では委員がおっしゃるように、事情をお伝えしつつ応援いただくということが重要かと思っています。

【松原委員】

専門的な話だけではなくて、動物園の苦労だとか、小学生にとっての気づきや興味を持ってもらえるような発信をするかということが重要だと思います。動物園にはペットがいるわけではないので、自然の動物の顔つきなどを小学校の体験学習で見てもらう。動物の個々の機能、目がいいとか、耳がいいとか、逃げ隠れてしまったらもう全然かなわないだとか、ジャンプ力だとか足が速いだとか、低学年のときに興味を持ったら、社会人になってもインパクトに残っていると思う。そこから、経済学や生態学を勉強するだとかという道にわかれていくんだけど、何かきっかけ作りみたいなことをやると子どもたちの印象に強く残ると思います。例えば夏休み中であれば、家族と低学年と一緒に来たら、親子の繋がりができると思います。小中高校生の死亡事例が去年よりも 1,020 人弱多く、今までの記録の中で一番多かった。昨今は家庭環境も変わり共稼ぎが増えている。そのため、6 時間授業が終わっても子どもたちの居場所がなくなっていることがあるけれど、そういったことの中でお母さんお父さんと話すみたいな仕組みを考えれば、そういうところができるような気がします。

【吉中議長】

気候変動と動物園との関係は非常に重要なテーマだと思います。既に円山動物園と EPO 北海道と一緒に気候変動教育をどうするのかという取組が始まっていると承知していますので、動物側への適応といいますか、あの気候変動、温暖化の影響を動物にどう緩和するの

かというような適応と、もう一つ教育の場として動物園をもうちょっとうまく使っていけないのかという両方が動物園として果たすべき役割であるんだろうということをもう一度再確認させていただきました。

【滝口委員】

以前もこの会があったときに、広報に力を入れてはどうかというような意見が出てたかと思って、先ほどご説明を受けて、かなりアンケートを実施されたりと見受けられました。ただ、ホームページを拝見すると、札幌市の施設なので限界があるのかもしれないですけど、かたい印象がある。札幌市のホームページから円山動物園のホームページにリンクしたら雰囲気が変わるようなプランニングをいくつかの業者に競わせるだとかして改善することが入園者の増加など鍵を握るのかなと感じました。他の動物園のホームページを見てみたら、飼育員のブログだとかが見受けられる。飼育員じゃなくてもライターがいれば、こういう動物に視点を絞ってみるとか、あるいは獣医師の立場からも発信ができるかと思いますので、円山動物園らしきみたいなのが出せたらいいのかなって思いました。先ほど小菅先生が北海道の動物園の連携が非常に良いとおっしゃってましたけど、円山動物園のホームページに北海道の動物園がリンクがあって、一緒にやってみたいなのが、北海道は野生動物も多いですので、そういう意味ではとても魅力的な動物園になれるのかなというのがあり、もう一工夫あるといいのかなと思いました。

【吉中議長】

公立 4 施設以外にも 9 施設の JAZA に加盟している道内の動物園水族館あると思いますので、その辺との連携をぜひ PR していくといいなと思いました。

【松原委員】

札幌市は非常に国際会議の多い都市なので、これらの方々に円山動物園の見学、視察、研修などで知ってもらうこともできると思います。国際会議を活用することを候補として考えていただければと思います。

【細矢委員】

来園者の立場でお話させていただくと、この前、旭山動物園に行ってきました。本当に 1 日いられるなという感覚で、何だったのかなと思ったら、動物とかその環境に対してのコメントがびっしりと園内に書かれている。それを見て動物を見ると、うんちくが入ってくる。正直いえば、円山動物園は確かに動物はいるんですけども、それに対する説明が不足しているような感じは受けます。何がいるのかということや展示方法はわかるのですが、それに対する説明をもう少し面白く展示してもらえると楽しいかなと思いました。

【林委員】

委員になって 1 年になりますけれども、円山動物園にはずっと昔から通わせていただいて、例えばホッキョクグマのシロとボールの赤ちゃんも見ています。2010 年頃から動物が死んでいってしまい、その時には動物園に行った際に悲しいことがまた起こるんじゃないかという不安があったんですけれども、今こうして会議に参加させていただいて、本当に変わってきていて、この会議もすごく機能していて素晴らしいなと思いましたので、今はそんな事故とかの心配もあまりしてなくて、動物園をすごく楽しんでいます。

一昨年にホッキョクグマのデナリが亡くなったときに、献花やお供物を受け付けてくれない動物園がある中で、円山動物園では受け付けてくれて、集まった食べ物とかも他の動物に提供していただいて、命日とかもお花を持って行きましたが全部受け取ってくださって、ファンの方も感謝しています。デナリが亡くなった日も手厚い看護をしてもらって、デナリは展示されてるとき、閉演の音楽が鳴ると出てきて、お客さんに対して丁寧にまたねって帰っていくようなクマで、最後の日もずっとプールに入っていたのを起き上がって出てきて、お客さん 1 人 1 人を見て、みんなが手を振るのを最後まで見送って亡くなりました。そういう親しみのある動物園になったなというふうに感じております。釧路動物園とも連携して連絡を取り合ってるってことだったんですけれども、この間、キロールが亡くなりましたが、医療体制についても連携は取れているのでしょうか。

【柴田園長】

もちろんこちらから十分に確認させていただきましたけれども、今回は急性の部分の進行が早くてということがありました。不調になってからも連絡をいただきながらやり取りをさせていただいていますし、今回の記録以外にも都度、獣医師同士の相談っていうのは気軽にできるような体制になっています。

【吉中議長】

それでは、他になれば本日の議事を終了したいと思います。

【寺島保全・教育推進課長】

長時間ご審議いただきまして大変ありがとうございます。次回の開催ですけれども、年度過ぎるかと思いますが、5 月以降で想定してございます。後日改めて日程調整のメールをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして貴重なご意見ありがとうございました。